

ギリシヤ支援に合意

ユーロ圏会合 民間損失を拡大

欧州連合（EU）のユーロ圏17カ国は20日夕からブリュッセルで財務相会合を開き、財政危機のギリシヤに1300億^円（約13兆7千億円）の追加支援を実行することで合意した。これでギリシヤは3月の国債返済を乗り切ることができ、この時点での国家破綻は避けられそうだ。

失をさらに増やす方向で合意。ギリシヤ国債の元本のカット率を昨年10月に決めた50%から53・5%に引き上げる。ギリシヤ国債をも

つユーロ圏の中央銀行なども損失をかぶって、債務削減に協力する。すでに実施している支援の金利の引き下げも実施する。

ギリシヤは3月20日に145億^円（約1兆5千億円）の国債の返済が待っており、追加支援が得られなければ、突然借金が返せなくなる「債務不履行（デフォルト）」に陥るおそれがあった。

ユーロ圏財務相会合のユンケル議長は会合前に記者団に対し、支援規模について調整が必要だとしながらも、「今日（20日）、交渉は終えなければならぬ」と述べていた。

（ブリュッセル＝野島淳）

追加支援はEUと国際通貨基金（IMF）が実施。

これと同時に、総額約2千億^円のギリシヤ国債を持つ銀行などの民間投資家が損失をかぶることで、ギリシヤの政府債務（借金）を減らす。

ギリシヤの政府債務の残高を現在の国内総生産（GDP）比約160%から、

2020年までに120・5%に引き下げ、借金返済が続けられるようにする計

画だ。これまでの欧米メディアの報道によると、ギリシヤの景気悪化が予想以上に深刻なため、従来検討された支援策では、借金は20年でGDP比129%までしか減らないと指摘されていた。

このため今回の会合では、支援額を実質55億^円（約5800億円）前後増やすことを軸に話し合った。民間投資家がかぶる損

失を減らす方向で合意した。ギリシヤ国債の元本のカット率を昨年10月に決めた50%から53・5%に引き上げる。ギリシヤ国債をもつユーロ圏の中央銀行なども損失をかぶって、債務削減に協力する。すでに実施している支援の金利の引き下げも実施する。

このため今回の会合では、支援額を実質55億^円（約5800億円）前後増やすことを軸に話し合った。民間投資家がかぶる損